

「塞王の楯」ゆかりの地

滋賀をめぐる

今村翔吾著「塞王の楯」は全編を通して滋賀県が舞台になっています。そして作品の中で描かれる滋賀・びわ湖には、今も変わらず滋賀で暮らしている私たちが日々体感しているものがたくさんあります。ぜひ、実際にゆかりの地を訪ねて作品の世界観を体感してください。



第166回直木賞受賞作品
今村翔吾著「塞王の楯」
「最強の楯」×「至高の矛」
近江の国・大津城を舞台に、
石垣職人「穴太衆」と
鉄砲職人「国友衆」の宿命の対決を描く
究極のエンターテインメント戦国小説
集英社刊 定価2,200円(税込)



作家 今村翔吾氏

1984年京都府生まれ。滋賀県在住。ダンスインストラクター、作曲家、守山市埋蔵文化財調査員を経て作家デビュー。「童神」で第10回角川春樹小説賞を受賞。「童神」は「童の神」と改題/角川春樹事務所)。第160回直木賞候補(2018年下半年)にもなった。2020年「八本目の槍」(新潮社)で第41回吉川英治文学新人賞、第8回野村胡堂文学賞受賞。「じんかん」(講談社)で第163回直木賞候補、第11回山田風太郎賞受賞。2021年「羽州ぼろ蔵シリーズ」(祥伝社)で第6回吉川英治文庫賞受賞。2022年「塞王の楯」(集英社)で第166回直木三十五賞受賞。また、講演・テレビなどに出演するほか、2021年11月には大阪府箕面市にある書店を事業承継し「きのしたブックセンター」の書店経営を行う。TBS報道番組(JNN系列)『Nスタ』レギュラーコメンテーター出演中。
撮影:佐賀章広

大津市 穴太衆と大津城決戦ゆかりの地

穴太衆積み

延暦寺の門前町・坂本には、穴太衆と呼ばれる石工集団がいました。穴太衆が組む石垣は、「石の声を聞け」という口伝に象徴されるように、自然にある石を加工しないで巧みに組み合わせる「穴太衆積み」という技法で作られ、その堅牢さから戦国時代の城作りに大きな影響を与えました。現在でも大津市坂本では美しい穴太衆積みの石垣を見ることができます。

立花宗茂と大津・膳所

筑後柳川城主立花宗茂(1567~1643)は大津城の戦いで西軍として参加し、戦功を挙げました。関ヶ原の戦い後、一度改易されますが、ほどなく徳川家康・秀忠に認められて奥州棚倉を経て旧領柳川に戻りました。その宗茂の養女が嫁いだのが膳所藩主本多康俊の嫡男俊次でした。宗茂と俊次は茶器を贈りあったり、俊次の子の将軍家光へのお目見えに宗茂が同道したりなど、深い関係にありました。両家の関係は子孫にも続き、俊次の孫娘が宗茂の孫に嫁いでいます。

大津百艘船

豊臣秀吉は水陸交通の要衝で京への東玄関となる大津の港にいち早く注目。水運の発展と軍事利用のため、湖上での特権と保護を条件に「大津百艘船」を組織し、船奉行を置いて琵琶湖の水運を支配下に納めました。輸送には「丸子船」と呼ばれる琵琶湖特有の船が使われ、最盛期の江戸中期には約1300艘もの船が運航していたと記録されています。



坂本の町並み アクセス●JR比叡山坂本駅より徒歩10分、京阪坂本比叡山口駅よりすぐ/お問合せ●坂本観光協会 Tel 077-578-6565



「大津城考証図」

大津城

大津城の規模については、現在縄張りを示すような当時の古絵図は残っていませんが、明治以降の復元資料によると本丸は琵琶湖中に島のように浮かび、本丸を守るように奥の丸、二の丸、三の丸、伊予丸が3重の堀をめぐらせて配置された水城だと考えられています。大津城の戦いの後、廃城となり、後に膳所城が築かれました。

大津城 アクセス●JR大津駅より徒歩15分、京阪びわ湖浜大津駅より徒歩2分/お問合せ●びわ湖大津観光協会 Tel 077-528-2772



大津市歴史博物館
時間●9:00~17:00(入館16:30まで)
休館日●月曜日(祝日・振替休日)の場合は開館し、翌日が休館)、年末年始
入館料●大人330円、小中学生160円
アクセス●JR大津京駅より徒歩15分、京阪大津市役所前駅より徒歩5分
●Tel 077-521-2100



重要文化財「大津百艘船関係資料」
大津市歴史博物館蔵

- ①大津城特集ミニ展示コーナー
わずか15年ほどしか存在しなかった大津城。しかし、その果たした役割は実に大きいものでした。この時に現在につながる大津の町並みが形成され、大津百艘船と呼ばれる琵琶湖水運の集団を組織しました。また、慶長5年(1600)9月に行われた大津城の戦いは、結果として関ヶ原の戦いの東軍勝利に貢献しました。このミニ展示では、数少ない大津城や大津城の戦いに関する資料を紹介します。
- ②講演会「大津城の戦いについて」
慶長5年9月、大津城をめぐる激しい攻防戦が繰り返されました。近年注目されはじめた大津城の戦いについて、史料に基づいてその実態を明らかにします。
開催日●令和4年8月27日(土)、10月23日(日)/時間●14:00~15:00(13:30開場、講演終了後自由観覧)/参加料●500円
申込み●WEBで事前申込み制 <https://airrsv.net/seminar-otsu/calendar>